魔法少女リリカルなのは　交じり合う狂気

わいてぃー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
魔法少女リリカルなのは　交じり合う狂気

【Ｎコード】
Ｎ４０９６ＢＡ

【作者名】
わいてぃー

【あらすじ】
いつもいつもヘタレな男子の主人公レイン。だがヘタレの癖に悲しんでいる女の子を助けてしまう、あげくの果てにヤンデレに・・・。
レインはヤンデレに耐え切れなくなり逃げることにしたが・・・・。
初めての投稿っス！！応援、感想、アドバイス募集するっス！！

プロローグ（前書き）

初めての投稿っス！！　キャラ崩壊などなど原作が汚されるのが嫌なひとは見ないでほしいっス！！

プロローグ

Ｓａｉｄ　？？？

　ずっと一人だった・・・・・・・・・・・でも・・・・・
一人だったから君に会えた・・・・・あっちゃったんだよ・・・・・・・
・・・・・素敵な・・・・・・・・キミに・・・・・・・・・・
もう離さないこの温もり
もう離さないこの手をもうもうもうもうもうもうもうもうもう・・・・・
。

？「・・・・・・絶対に・・・・・なの。
・・・キミだけに全部あげる、キミが嫌なものケシテあげる。
・・・だからワタシを見て・・・・・・・・レイ君」

レ「・・・・・・・なのは・・・・・ごめん・・・・」

・・・・・・・なんで？？？？？？？？？？？？？

な？「・・・・・・・どうして・・・・謝るの？」

レ「僕がキミ達を・・・・・壊してしまった。　フェイトも、はやても。
　・・・・・・・だから、僕はこの世界から・・・・消え「「消えても君を追うよ・・・・絶対に」」・・
・・フェイト・・・はやて・・・・。」

フ?「・・・・・・行くなら私もついて行く。
離さないよ私にはキミだけなんだから・・・・。」
は?「・・・・もちろん、うちもや。
死んでもついてくで・・・。」
レ「・・・・・・・・・・・・・・・・・・。」

Said　レイン

・・・・・どうして、こうなってしまったんだろう。
ただ手を伸ばしただけなのに、涙を拭ってあげただけなのに。
・・・・・こんなにも、狂ってしまったんだろう・・・・・
・・・・・僕は弱虫だからなにもできない。
・・・・ただただ、この恐怖から逃げるだけ。
早く早くはやくはやく・・・・・この世界からきえたい。
レ「・・・・・・・・まだ?ソロー・・・・」
ソ（もう少し、お待ちくださいマスター・・・）
レ「・・・・わかった・・・もう少しだけ時間稼ぎを「何してるの?」!?・・・・するから。」
な?「さっきから・・・・何してるの?」
・・・・・・こんな感じで

レ「君たちのことを考えてたよ・・・・」

な・フ・は「ほっ本当！？／／／／／／」

レ「うん、本当だよ」

・・・・・・・・・・うそだけど

いつもそうだ、嘘ってわかってるはずなのに・・・・簡単に信じて受け入れる。

それがとても怖い、何を考えているのかわからない。

・・・・それに、僕と会う前は綺麗な目や髪をしていたのに今は漆黒・・・すべてを飲み込むような色。

それも、３人共だ。

・・・・僕のことをずっと考えていたらなっていたらしい。一回自分は呪われているのかとおもったほどだ。

それも、これで終わり・・・・相棒（デバイス）であるソローと一緒に正しい世界に戻るんだ。

・・・だれも、彼女達によって誰も消されていない世界へ・・・・。

ソ「マスター・・・・・・」

・・・・・やっぱり、僕に似合わないほど優秀なデバイスだよ・・君は・・・・。

チラリ・・・と、なのは達を確認・・・・・

な・フ・は「／／／／／／／／／／／／／／」

・・・まだ喜んでた。恐ろしいね。
魔方陣を展開・・・・
な・フ・は「「「！？」」」
レ「・・・最後に言っておく・・・・し」
ヒュン

・・・・・転送中。
レ「ねぇ、ソロー・・・・」
ソ「はい、マスター・・・・」
レ「もうちょい、空気よんでよ・・・あれぜったい追跡フラグ立っちゃったじゃん！！
何あの最後の「し」って、僕だったら気になって眠れないよ！！」
騒ぎ出すレイン
それを、冷静に宥める自称マスターの人生相談役ことデバイスのソローは・・・
ソ「だって～」

レ「冷静じゃないジャン！！」

地の文にツッコンじゃだめっス！！

レ「黙らっしゃい！！」

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・。

レ「地の文が本当に黙るな！！」

・・・・・・・・ｚｚｚ・・・・・フガッ・・ｚｚＺ

レ「寝てるんかい！！」

ソ（誰と話しているんですか。頭大丈夫？　痛い所ない？　おねんねできるぅ？）

そう言って優しく点滅する・・・・グスッ・・・いいお母ちゃんっス・・・

レ「これからどうする？」

あっ、そうやって無視するんですか？いやな奴っっス

ソ（一度このまま流されていきましょう。）

お～いそろそろお許しをいただきたいっス

レ「了解・・・で、どこに着くんだ？」

ほっ放置プレイっスか、耐えてみせるっス

ソ（・・・・・・・・・・）

・・・・・・・・・・・・・・・・・。

レ「・・・・・・・・・・・・・」

・・・・・・・・・・・・・・・・・。

レ「・・・・わからんのか？」

・・・・・・・・・・・・プルプル・・

ソ（・・・・・・・・・・・・す）

・・・・・・・・・・・・・・・・す。

レ「・・・す？酢？」

ソ（すっすみましぇんでしたぁぁぁぁぁぁぁ！！）

アイム　ソーリー　ヒゲソーリ！！

レ「しかたないな。許してやるよソロー」

あれ、すべる技をつかったはずなんすけど

そのとき、まだレインはきずいていなかった。

・・・・背中に小さく輝く機械があったことに・・・・

Ｓａｉｄ　ヤンデレ達（なのは、フェイト、はやて）

な「・・・行っちゃったね」

フ「・・・そうだね」

は「・・・けど、レイン君はかわええなぁ～」

はやての手に握られている何かの場所を示している機械・・・・その機械は起動している。

フ「まさか、レインが気がついてなかっただなんて・・・フフフ・・・」

フェイトは笑顔になる・・・誰をも魅了する微笑である。

な「うん・・・／／／／／／／／／」

なのはは、なのはで・・・・妄想ゾ～ン・・・・

な「つけておいてよかったな～・・・・発信機・・・・」

そう、あれは発信機

は「・・・でも、少しだけそっとしておいてあげへんとな」

な・フ「「どうして！？」」

もう早く追いかけたいらしい（汗）

は「・・・・レイン君は、・・・・残念やけどウチらに恐怖しとるやんか・・・・」

な・フ「・・・・・・・・なるほど」

みんな何かを理解したようだ

な・フ・は「「待っててレイン君」」

プロローグ（後書き）

駄文っすね。
今回のプロローグで、アドバイスを募集するっス！！
亀更新かもしれませんが応援よろしくっス！！

キャラ説明っス！！　（前書き）

小説書くのって大変っスね！！

わかりにくいと困るので

説明っス・・・どうぞっス！！

キャラ説明っス！！

主人公
レイン・グラゴニス
１３歳　性別　男の娘？　身長？？（いつも幻で変化しているから忘れたらしい）

本作のヘタレ主人公。
基本的には、逃げ腰だがお酒などでテンションが上がるとぶるぁぁぁぁぁと、別人である。
最近は女性恐怖症になりつつある。だが、困っていたり悲しんでいたら手を差し伸べちゃうフラグやろう。
身長をしょっちゅう変えてヤンデレにばれないようにしている。
魔法は主に幻術を使う。ものすごくリアルなのでヤンデレ（最強）相手にも十分有効。攻撃魔法は一切なく、幻術一筋！！
髪は黒だが目は青である。

魔力光　灰色
魔力ランク　ＡＡＡ
近接ランク　測定不能（弱すぎて）
遠距離ランク　Ｃ＋（あればいいくらい）
特殊ランク　ＳＳＳ（幻術だけで）

レアスキル　「狂愛の心」　自分を死ぬほど愛す人（ヤンデレ）に強大な力を与え自分が敵と判断したものを変わりに処理する。いわば多少洗脳状態。

ソロー（インテリジェンスデバイス）人格　女性

主人公レインのデバイス。
基本は冷静でありレインのサポートを行う優秀なデバイスである。
時々冗談をいってレインのメンタル面もサポートを行っている。
レインのことを一番に考えており、レインがヤンデレを自然に作ることを受け入れどうやってレインを守るか考えている。形状はネックレスでありセットアップ時は鎖。

ヤンデレ（なのは、フェイト、はやて）

すでに、その身は「狂愛の心」によって不老となっている。
魔力量もすでにＳＳＳオーバーである。髪の毛は黒く染まり目は赤く染まっている。
デバイスさえも黒くそまっていて話す機能が消滅している。レインのことが大好きでたまらない。レインが人間に恐怖してしまったため、一人残らず処理されている。なのは達は特にどうとも思っていない。

キャラ説明っス！！　（後書き）

どうでしょうかりかいできたっすか？

理解できない所があったら聞いてください！！

では、さいなら。

1話　えっ意味なくね！？（前書き）

最近は、ちょっとした感想がうれしいッス！！
心の励みになるんすよ・・・・
これからも、応援よろしくッス！！

本編をどうぞッス！！

1話　えっ意味なくね！？

運命って・・・最近残酷だとおもう

・・・・・・ヒュン

とある場所に魔方陣が展開された・・・

レ「さてと・・・とりあえずは追跡されずにすんだかな？」

ヘタレ主人公、レイン君と。

ソ（・・・・そうですね。とりあえずは、追われなかったみたいですね。）

冷静沈着、自称人生相談役の優秀デバイス・・・ソロー様・・・登場！！

レ「で・・・ソローのことだから、もうこの場所が何処か・・・わかってるんでしょ？」

ソ（・・・・・はい・・・・ですが）

レ「あぁ、いいよ。たまには自分で調べてみるよ。」

ソ（・・・・・・・・・・はい、承知いたしました。）
後に・・・レインはソローの話を聞いておけばよかった思うなど・・・知るよしもなかったらしいっス

Said　???

私の名前は、高町なのは。

現在はＰＴ事件が終わって、ゆっくりしている所です。
今回の事件・・・色々なことがあってヘトヘトでした。
フェイトちゃんとも連絡をとりあったりしています。
まぁ、そんな感じでいつもどうりに過ごして・・・・ユーノ君とおさんｐ

な・ユ「「！？」」

な「・・・気のせい？・・・・じゃ、ないよね。」

ユ「うん・・・確かに魔力反応だ・・・管理局は今はいないはずだし・・・。」

突如現れた魔力反応に、どうようする二人・・・

な「行かなきゃ・・・・だね。」

ユ「・・・・うん。」

反応があった方向え走り出す二人・・・

この時・・・なのは達は知らなかった・・・

これが狂った運命の始まりだとは・・・・・・・・

Ｓａｉｄ　レイン

人の反応があったので、とりあえず向かうレイン君

とりあえず町に入るレイン君

そしてとりあえず、町を見た。

そして、レイン君の一言・・・・・

レ「ここ・・・・・海鳴市ですよぉおおおおおおおぉぉおおおおぉっぉぉぉぉ！！・・・・・・ソローさん」

ゴゴゴゴゴゴゴ・・・・・

超怖いッス！！

ソ（はっはいいいいいいいい！！）

あまりの威圧感に空間が歪みはじめたぁぁぁぁぁぁぁ！！（気がするだけ・・・）

レ「・・・・・ソロー・・・説明ヲ・・・。」

ソ（はい！！ここは確かに海鳴市でありますが、パラレルワールドだと推測されます！！」

レ「・・・？パラレルワールド??」

・・・・ちょっと、どうしてわかるのかな～?（怒）

ソ（その証拠に、ヤンデレ達の強大な魔力が感知できません！！）

そう、ヤンデレの反応は・・・・である・・・。

レ「・・・フゥ・・・・そっか・・・なら安心して生きていけるね・・・。」

それに気がつかないレインもレインっすね。（汗）

?「あの～すいません・・・・。」

・・・誰かが話しかけてきたっすね。

ソ（マスター・・・・誰かかなしかけt！?・・・・・・マスター申し訳ございません）

・・・ん、どうしたんだろ？

レ「はっはいなんです・・・・ぎゃぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！」

？「どどどどうしたんですか！？」

レ「ななななのはじゃぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁん！？ソロおおおおおおおおおおおおおお！！」

な「はっはい？確かに私は高町なのはですけど・・・・・。」

ソ（まっマスターおちつ、おちつぅぅぅぅぅぅぅ！！）

お前もっすよ（笑）

ソ（マスターここは、落ち着いてください！！ここはパラレルワールドです。」

必死に伝える冷静（もう自称ッス）なデバイス・・・・

レ「パラレルワールド？違う可能性の世界？ヤンデレじゃない世界？」

ソ「はい！！そうです！！」

そう、パラレルだからヤンデレであるはずがないッス！！

な「あっあの～」

レ・ソ「「はっはい！！」」

Ｓａｉｄ　なのは

なんだか怪しい人たちなの・・・・

さっきから、なんかゴニョゴニョいてるけど・・・

な「少し、お話聞かせてもらえますか？」

？「・・・・・・・・・。」

む、失礼な人なの・・・

？（・・・・すみません。マスターは女性恐怖症なので・・・・私が代わりに代弁させていただきます）

・・・？。これはデバイスだね・・・・。

な「初めまして。高町なのは、てっ言います。」

ユ「僕は、ユーノ・スクライアです。」

ユーノ君・・・そういえば居たんだったね・・・・

でも、自己紹介は大切なの

？（はい・・・私はソローと申します。・・・・マスターの名はレイン・グラゴニスと申します。）

・・・・・む。

私はレインさんに近ずく・・・

レ「ひ！？」

な「は・じ・め・ま・し・て。高町なのはです！！」

自分で紹介しないなんて・・・幾ら女性恐怖症でも・・・駄目なの！！

レ「・・・・・・・まして・・・・。」

な「・・・・・・・・・・ニコッ」

レ「はじめまして！！」

よし・・・・なの。

ユ「あはっあはははは・・・・。」

・・・・・・で。

な「これから、お話きかせてください・・・・・ね？」

レ・そ「「はっはいいいい・・・・・」」

これからちゃぁぁぁぁんと聞かせてもらうなの・・・・・

そんな、なのはにビクビクしながらついて行く人が一人と一つ見られたらしい・・・・

1話　えっ意味なくね！？（後書き）

こんかいはどうっすか？

・・・・・文が短いッス

ユーノをマジ忘れてたっス・・・

これからも、応援や感想を募集っス

がんばっていくっすよ～

2話　約束と迫りくる恐怖（前書き）

最近つらいことといっぱいっす！！

でも頑張るっす！！

本編始まるっす！！

2話　約束と迫りくる恐怖

Ｓｉａｄ　なのは

あの後、ユーノ君とお別れして・・・・・

な「あの！！ちゃんとお話きいてます？」

レ・ソ「「はっはい！！」」

現在　拷問中ぅ

な「拷問じゃないなの！！」

はい！！すいませんっス！！

レ・ソ「「・・・？」」

な「さっきからはいはいはいはいって・・・・はいしか言ってないの！！」

レ「すっすいません・・・・でもああするしかなかったんです。」

彼は・・・・

な「・・・・・どうして？」

レ「・・・・・・・・・。」

どうして・・・・そんなに悲しい顔をするの？

な「何か理由があるなら相談してください。手伝えることがあ（ありません）・・・どうして。」

彼のデバイスであるソローさんが遮る・・・・

ソ（・・・どうしてあなたは、とまどいもなくマスターの心を傷つけるられるんですか？）

な「傷つけてなんか・・・・・」

ソ（マスターのことを知りもしないで・・・・出しゃばらないでください！！）

・・・そんなことわかってるよ・・・・でも・・・。

な「話してくれなきゃなんにもわからないよ！！」

ソ（・・・・・・・・・・）

な「何にも知らないまま・・・・終わらせたくないよ・・・・・。」

彼女は黙ってる・・・・・

ソ（・・・・・・・・・・・・・・・・・・フフッ・・・）

な「・・・・・？」

ソ（・・・・やつ等がもし・・・・貴女の様なひとだったら・・・・・マスターは・・・・・。）

・・・・・・??

な「・・・やつ等?やつ等っていったい・・・・」

ソ（私からはお話できません・・・・）

・・・・ここで引いちゃだめなの・・・・・・。

な「でも、それでも!!わた（ですが!!）・・・・?」

ソ「貴女がマスターの信じるに値する人なら・・・・マスター・・・・。）

レ「・・・・・信じないよ・・・・。」

・・・・・・だったら・・・・・

な「・・・私がもし・・・・もしだよ?貴方の信じるに値する人間になったら・・・・・。」

レ「・・・・・・・いいよ・・・・・・ありえないからね・・・・」

・・・・・やった!!!!!

な「約束・・・・・だよ?」

レ「うん・・・・・・・」

Ｓａｉｄ　レイン

・・・・・・・・・・。

ソ（マスター・・・・・・）

こりゃ、ヘタレ卒業っすかね・・・

な「グラゴニスさん・・・・レイン君ってよんでいいですか？／／／／／／／／」

レ「・・・・？勝手にしてい（マスター・・・）・・・・何？」

ソローが話を遮る・・・・

ソ（マスター・・・また同じ過ち（・・）を繰り返すつもりですか？・・・・」

レ「やっ・・・やっぱり駄「駄目・・・ですか？／／／／／」・・・いいよ。」

ソ（マスター・・・・・・ハァ・・・・・。）

もじもじしながら言ってきた・・・・怖いよぅ・・・

な「レイン君は、学校は通うの？」

レ「学校？どうして？」

いらないんじゃない？

な「だってレイン君同い年みたいだし、友達作ったほうがいいし・・・・。」

・・・・ムカッ

レ「余計なお世話！！・・・それに今更、やつ等に処理された人たちにあったって・・・・。」

な「・・・・・？」

ソ（マスター・・・・・）

うぅむ・・・・・・・・・・・・よし！！

レ「わかった行ってみるよ・・・」

な「うんうん！！」

レ「・・・明日から行くから。」

な「わかった！！絶対だよ！！」

レ「うん・・・・」

・・・なんで、よろこんでるんだろう・・・・

な「じゃあ、私家に帰るね・・・そういえば、レイン君お家は!?」

あ、そうだった・・・

レ「ソｒ（問題ございません）・・・・らしい・・・・。」

本当に優秀なのかアホなのか・・・・

な「あ、アハハ・・・・・。」

ちょっとの時間だけ平穏な空気を味わえたレイン君。

・・・・しかし、もうその背後には狂いしもの達が近ずいてきている・・・・・・。

Ｓａｉｄ　???

?「あの、なのは・・・・処理しちゃっていいかな?」

?「駄目や・・・もう少しだけ我慢するんや・・・・。」

?「自分なのに・・・・恨めしい・・・・」

?「あんなん、いつでも処理できるやろ?」

？「そうだけど・・・・・・」

？「今は、我慢時や・・・・・」

？「・・・・早く・・・・・マトモになってね・・・・。」

？・？・？「「「完璧に・・・・コワシテ・・・私のものに／／／／／」」」

Ｓａｉｄ　レイン

レ「！？」

ソ（・・・？マスター？）

気のせい・・・・だよね・・・・

レ「何でもない・・・心配しないで」

ソ（・・・・そうですか）

それにしても・・・・・

レ「学校か・・・・・」

ソ「本当に大丈夫ですか！？」

制服とか買うのかなぁ・・・・・・・フフッ・・・・

2話　約束と迫りくる恐怖（後書き）

レイン君学校・・・まんざらでもないんすね・・・・・・

といことで、どうでしたか？

最近疲れが溜まってたいへんっす。

次話がんばります！！

3話　転入と交じり合った雷光と狂った星（前書き）

今日はちょっとだけ長いっス！！

本編をどうぞっス

3話　転入と交じり合った雷光と狂った星

Ｓａｉｄ　なのは

昨日・・・・レイン君とした約束・・・・・。

な「絶対！！信じられるって思わせてみせるの！！」

強く心に決めるなのは・・・・しかし、その選択が招く運命を・・・・

しるよしもなかった・・・。

？「お～い、なのはーーー！！」

？「あ、ちょっとアリサちゃん急に走らないでよ・・・・」

あれは・・・・・・・

ア「あ、ごめんね。・・・すずか。」

す「うん。なのはちゃんおはよう」

ア「おはよっ。・・・それで何かあったの？」

ビクッ

な「な、なんでわかったの？」

なんでだろ・・・

ア「顔に出てるのよ。か・お・に！！」

アリサちゃんが顔にグリグリと手を押し付けてくる

な「アリサちゃんやめてなの～。」

痛い、痛いなの・・・

す「それで・・・本当にどうしたの？何か思いつめた感じだったけど・・・。」

！？・・・そうなの

な「アリサちゃん！！すずかちゃん！！」

ア・す「「な、何よ（かな）」」

な「手伝ってほしい事があるんだけど・・・」

レイン君のことを説明中ぅ（魔法のことを除いて）・・・・

な「それで、レイン君に信じてもらえるように手伝ってほしいんだけど・・・。」

ア「・・・・・・・・・なのは・・・。」

・・・・・・・・・？

な「・・・・・ん？」

ア「なのは・・・そいつのこと好きなの？」

・・・・・・・・・・・・・・・！？

な「ち、違うよ！？どうしてそんなこと／／／／／／／／／／」

レ、レイン君とはお友達なの／／／／／／／／

ア「ふ～ん・・・・まぁ良いわよ別に。」

す「私もだよ。」

な「うん！！ありがとう！！」

・・・・よかったの

ア「ほら・・・さっさと行くわよ！！」

す「あ、また走っていくんだから・・・」

な「ま、待ってよ～」

今日はレイン君が学校に来る日・・・・

な「がんばるなの！！」

ア・す「「なのは（ちゃん）？」」

あっ・・・・・

な「／／／／／／／／／／／／／／」

Said ???

?「・・・・・そろそろ・・・かな?」

?「・・・・どうかしたの?なn「今の私の名前は・・・グリード・・・なの」・・・グリード・・・。」

グ「ちょっと出かけてくるから・・・・」

?「どこに行くんや?・・・」

グ「フェイト（・・・・）ちゃんの所に・・・・だよ?」

?「・・・・処理するの?」

グ「違うよ・・・ちょっとだけ様子を見に行くだけだから・・・・」

?「処理しちゃ駄目やで?・・・フェイトちゃんは・・・」

グ「わかってるよ・・・まだ（・・）使えることくらい・・・・」

?「・・・・・すぐに帰ってくるんやで?」

グ「心配性だね・・・この世界に・・・・私を殺せる人なんかいる

訳ないよ・・・」

？「・・・・そう・・・やな・・・」

グ「じゃ・・・・行ってくるね・・・」

物語が動く今・・・・一つの歪みは動きはじめる・・・・

Said　レイン

レ「・・・なんか久々な気が・・・」

それを言っちゃダメッス！！

現在ソローを置いてきている

この学校は転入試験があるらしい・・・

席に着く僕・・・

「はい、これから試験を開始します。」

レ「は、はい・・・・」

転入試験開始ッス

レ「・・・まぁ、幾年も生きている僕には簡単だね・・・」

カキカキカキカキカキ・・・・

一時間後・・・

「はい、そこまでにしてください。」

ん、やっと終わりか・・・・

「はい、プリントを少しみせてくれる？」

レ「はい・・・・・」

「・・・・・・・・・・」

まだかな、合格は決まったもどうぜんだけど・・・・

「・・・・・・・・（合ってるちゃ合ってるけど・・・・・）」

早く、早く・・・・・

「・・・・・・・・（全部一個ずつ、ずれてるのよね～・・・・）」

・・・・ま、まさか不合格じゃ・・・・さすがに小学生の問題だよ・・・僕、とりあえず大人だよ・・・

「ハァ・・・・（でも理解はしているから・・・大丈夫かな？）

・・・・ため息だ・・・は、ははは・・・とりあえずは大人のつもりだったんだけどな・・・・

「・・・・じゃあ、合否を言うけど・・・・て、アレ？」

レ「・・・・・・・・グスッ・・・・」

ボク、カッコワルイ・・・

「ど、どうして泣いてるの！？（まさか・・・不合格っておもったんじゃ）」

レ「グスッ・・・僕は不合格・・・何ですよね？」

もういいよ・・・僕なんて・・・・

「（やっぱり！！）落ち着いて！！君は合格よ！！」

・・・・・・・・えっ・・・・

レ「合格・・・ですか？・・・」

ホントに？・・・・

「え、えぇ。」

僕は、僕は・・・・

レ「大人でいられたよ」

「・・・はい？」

よかった本当によかった・・・

感動中ぅッス！！

「じゃあ、合格おめでとう。君にはこの学校に正式に転入することを許可します。」

レ「はい・・・」

ちょっと嬉しいかも・・・

「これから君のクラスの場所を教えるから、ちゃんとついてきて？」

レ「は、はい（なのはとおんなじクラスかな？嫌だな～）」

現在移動中ぅッス！！

「レイン君ここよ・・・」

ここは・・・・

レ「はい（なのはのクラスか～）」

ホント嫌だな・・・

「じゃあ、少し待ってて・・・」

Ｓａｉｄ　なのは

レイン君もう来てるのかな～

「は～い、みんなおはようございます。」

あっ先生なの

「「「「おはようございま～す」」」」

「今日みんなにグットニュースですよ！！・・・なんと、このクラスに新しいお友達が増えることになりました。」

・・・・・・・・！？

「「「「イェーーーーーーーイ（きゃぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ）」」」」

「じゃ、入ってください。」

・・・・ガラッ

・・・・やっぱり、レイン君だ！！

レ「初めまして、レイン・グラゴニスです。よろしくお願いしませんのでよろしくしないでください。」

・・・・・・これから、大変そうなの・・・・

Ｓａｉｄ　？？？

森が広がる、とある管理外世界・・・

その世界に舞い降りる金色の髪の少女・・・・

？「こちらフェイトです・・・リンディ提督？」

フェイト・テスタロッサ・・・彼女は無線を繋げる・・・

リ「フェイトさん・・・ごめんなさね。突然頼んじゃって」

フェイトは地球に向かう途中にリンディ提督に仕事を頼まれたのである・・・

フ「い、いえ・・・全然大丈夫です・・・」

リ「そうかしら？」

そう言うとリンディあ微笑む

フ「それで・・・ここら辺に魔力反応が？」

リ「そうよ・・・・突如そこに巨大な魔力が現れたのよ・・・」

・・・・・・何か・・・嫌な予感が・・・・

リ「どうかしたの？」

フ「な、なんでもありません」

・・・・気のせいだよね・・・

現在調査中ぅ

フ「なんにもない・・・かな？」

・・・・一旦戻ろっかｎ！？

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ・・・・・・

フ「な、なにこの魔力・・・」

・・・・・ありえないよ・・・こんなの・・・

ん？無線が・・・

リ？「・・・ト・ん・・・は・・・・にげ・・・」

フ「リンディ提督！？」

・・・・無線が・・・切れちゃった・・・

フ「・・・・！？」

その一瞬全ての音が魔力による振動が・・・・消えた・・・

・・・・そして・・・声が聞こえる・・・

?「・イ・・ん・・・な・・」

フ「えっ・・・・・・」

・・・・今・・なんて・・・・

?「こっちこっち・・・後ろだよ?フェイトちゃん・・・」

ゆっくり後ろを振り返る・・・

フ「・・・・!?」

・・・・・えっ・・・なんで?・・・

同じ顔、黒いけど同じ髪、黒いけど同じ服・・・・なのに・・・

フ「ど、どうして・・・なの「はじめまして」・・・・・え?」

グ「私の名前はグリード・グラゴニス・・・君を待ってたよ?」

・・・・貴女はなのはじゃないの?

じゃあ、微笑む君は・・・・・・・ダレ?

3話　転入と交じり合った雷光と狂った星（後書き）

次はバトルを少し投入するっス！！

下手だけど次回もがんばるっス！！

4話　狂いしチカラと狂いし処理（前書き）

バトル・・・難しいッス！！

デバイスの英語は適当なのであしからずッス

では、本編開始ッス！！

4話　狂いしチカラと狂いし処理

Ｓａｉｄ　フェイト

グ「フェイトちゃん！！・・・・・反応ないなの・・・・」

今・・・私はなのは・・・・違う・・・グリード・グラゴニスさんと相対している・・・・

フ「・・・・・・（でも・・・ここまで一緒だなんてあり得ない・・・）」

グリードは、なのはと瓜二つであり・・・違うところって言えば・・・

グ「き～い～て～る～・・・・・」

フ「・・・・・・（髪は黒い・・・バリアジャケットも白じゃなくて黒・・・）」

グ「・・・・そろそろ、いいかな。」

フェイト・・・無視はいけないっス！！

フ「・・・・・・（それに、目も赤い・・・・もしかして・・・クローンじゃ・・・）」

酷いっス！！フェイトちゃん！！

フ「あ、あの・・・お聞きしたいことがあるんですが・・・」

本当にそうなら・・・

グ「ん？違うよ？」

・・・・・・・・・・・・・・・え？

グ「・・・・・私は・・・クローンじゃないよ・・・フェイトちゃん失礼だよ！！」

そう言って微笑むグリード・・・・

フ「・・・！？（どうして！？まだ聞いてもないのに・・・）」

この人は・・・・未知数過ぎる！！

フ「あの・・・どうしてこんな所に？（確か・・・私を待ってたよ・・・って言ったはず・・・）」

グ「あぁ・・・それはね・・・・」

話をしながらも考え込むフェイト・・・・

フ「・・・・・（それに・・・さっきの魔力・・・私が狙いなら、残念だけど・・・勝てない）」

グ「ここで3つ、やることがあってね・・・・」

フ「・・・・（隙をついて逃げるしか・・・）」

フェイトは内心悔しがっていた・・・努力して強くなったのに・・・
レベルの次元が違ったからだ

グ「一つ目は・・・・・」

フ「・・・・・・（今だ！！）」

フェイトはジャンプし・・・

タッ・・・・ビュン！！

今の自分に出せる最高のスピードで逃走する・・・

しかし・・・・

シュン！！

フ「！？・・・・（かなり速く逃げたはずなのに！！）

グ「全く・・・勝手にどっかに行っちゃ駄目なの！！」

・・・・・・いったい

フ「どうやって・・・・」

グリードのスピードをフェイトから見たら・・・瞬間移動と何ら変わらない速さだったからだ・・・・

グ「ん？・・・ただちょっと軽く飛んだ（・・・・・・）だけだよ？」

フ「と、飛んだ！？転送じゃなくて！？」

それが本当なら・・・・

グ「うん、飛んだだけ・・・・」

フ「・・・・（・・・駄目だ逃げられない）」

フェイトにはそのスピードに逃げ切れる実力はない・・・

グ「それでね一つ目は・・・・」

グリードは手に黒い魔方陣を展開する

フ「・・・！？けっ結界！？」

フェイト達がいた空間に結界が張られる・・・

グ「君を閉じ込めることだよ・・・・二つ目は・・・・・・」

フ「・・・・！？」

ガキャン！！

フェイトはバルディッシュでグリードが打ち付けてきた何か（・・）を受け止める・・・・

グ「・・・・・君のチカラ（・・・・）を・・・・見せてもらうこ

とだよ！！」

ガキン！！

グリードは一度身を引き・・・もう一度打ち付ける

フ「クッ・・・（なんて重い攻撃！！あんな細い腕の何処にこんな力が・・・）」

そんな重い攻撃をしているにも関わらずニコニコしている・・・・

グ「・・・・・その程度？」

さらに力が加わる・・・

フ「うぅ・・・（押し負ける！！）・・・・ハァ！！」

フェイトは一旦離れて・・・すぐに槍型のスフィアを構成・・・そして・・・

フ「ファイア！！」

ヒュン

打ち出す・・・だが・・・

グ「・・・・・・・・」

避けもせずただこちらを見ている

ドガガガァァァァン

フ「えっ・・・・・・」

周囲に爆発によって起きた煙が充満している

なら・・・・・今のうちにと思ったフェイトは・・・・・

フ「ファイア!!ファイア!!ファイア!!」

打ち続ける・・・

フ「バルディッシュ!!ザンバーフォーム!!」

バ（Ｙｅｓ，ｓａｒ）

バルディッシュが剣型に変形する・・・

フ「雷神!!」

魔方陣を展開し剣を振り上げる

バ（ＳｍａｓｙＺａｎｂａｒ）

そして・・・その剣を振り下ろす・・・

フ「はぁぁぁぁぁ!!」

ザン!!ズガガガガガガ!!ドゴォォォン

斬撃によりさらに爆発が起こる

フ「ハァハァ・・・・魔力反応はなかった・・・プロテクションも使ってない・・・全部直撃・・・」

幾らなんでもこれだけ当たれば無傷じゃすまないはず・・・

しかし・・・

フ「！？バ、バインド！？」

煙が晴れる・・・そこには無傷のグリードがたたずんでいる・・・

グ「・・・やっぱりこの程度のチカラだったなの・・・・・」

残念そうに呟く・・・

グ「フェイトちゃん・・・３つ目は・・・圧倒的な力量の差を見せ付けることだよ！！」

ビュン！！

グリードは大きくフェイトから離れる

グ「・・・・・・・いくよ・・・」

グリード手から４つの大きなスフィアを魔方陣なし（・・・・・）で出現させる・・・

フ「え！？」

フェイトは突如バインドから開放される・・・
出現したスフィアから魔方陣が出現する
グ「ジェノサイド・・・ブレイザー・・・・ファイア！！」
シュィィン・・・ドゥゥゥゥゥン！！
その魔方陣から、なのはのディバイン並みの砲撃が放たれる
フ「砲撃・・・この距離なら避けて・・・」
フェイトは上に回避したが・・・・
グ「・・・・甘いよ・・・」
突如砲撃が屈折する
フ「そんな！！・・・砲撃が曲がるなんｔ」
そして、フェイトは漆黒の光に貫かれた・・・・

Ｓａｉｄ　グリード
グ「・・・・これで、終わりだね・・・」

・・・・・・さてと、フェイトちゃんも落ちたことだし・・・・・もう・・・・ガマンデキナイ・・・

グ「レインクンガ・・・・ホシイホシイホシイホシイィィィィィィィィィィィ！！」

デモダメ、マダ・・・レインクンハ・・・・・・

ハヤク・・・コノ強欲（グリード）をオサエナキャ・・・・・

デモドウヤッテ・・・

グ「・・・・・ソウダ・・・コノホシヲ処理シチャウナノ・・・・」

トリアエズ・・・・フェイトチャンヲマモッテ・・・

グ「処理・・・カイシ・・・・・」

サァ・・・・強欲（グリード）ニミヲマカセルナノ・・・・・・

Ｓａｉｄ　フェイト

・・・・・・・クンクン・・・・・？

何か焦げ臭い・・・

私は目を覚ます・・・

そして目に映るものは・・・

フ「え？・・・何・・・これ・・」

黒い炎で燃える森が視界に入る・・・

フ「どうなってるの？グリードは・・・・・」

周りを見るが炎しか見えない・・・

フ「とりあえず、飛んで周りの確認を・・・・」

タッヒュゥ

フ「・・・・・酷い・・・・」

見はたす限り炎だらけ・・・

この森だけではなく、この星が燃えていた・・・

フ「・・・・一旦リンディさんのもとに行かなきゃ・・・・」

フェイトは転送の準備を始める・・・しかし、後ろから・・・

グ「・・・・ハハハハハハ」

フェイトは後ろを振り返る・・・

かなり遠い場所だが確かにいる・・・

グ「亜ははハハハハハ八はははははあっははあっはあはは
ははあはははは！！」

３対漆黒の鎌を背中から生やすグリードの姿・・・

フ「・・・・・狂ってるよ・・・・グリードさん・・・」

フェイトは転送し離れる・・・・この処理された世界から・・・・

4話　狂いしチカラと狂いし処理（後書き）

どうです？このバトル・・・・

おかしい所があったらアドバイスよろしくッス！！

では、次の投稿もがんばるッス！！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4096ba/

魔法少女リリカルなのは　交じり合う狂気

2012年1月14日01時50分発行